

強運な女になる

Mariko Hayashi

林 真理子



強運な女になる
林真理子

工業学院図書館
蔵書章

きょううん おんな
強運な女になる

一九九七年四月三〇日初版印刷

一九九七年五月七月初版発行

著者 林真理子
はやしまりこ

発行者 笠松 巖

発行所 中央公論社

〒104 東京都中央区京橋二一八七

電話 販売部〇三一二五六二一四三一

編集部〇三一二五六二一三六六六

振替 〇〇一二〇四三四

本文印刷 三晃印刷

カバー・扉印刷 大熊整美堂

製本 小泉製本

Printed in Japan © 1997 CHUOKORON-SHA, Inc.

Mariko Hayashi

ISBN4-12-002691-4 C0095

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本はお手数ですが小社販売部宛お送り下さい。
送料小社負担にてお取り替えいたします。

強運な女になる 目次

ひと目惚れされる女になる..... 7

運氣は貯金できるものである　男は運からつかわされたもの
まず金運、そして男運　「バーゲンの男」にさよなら
「モテ癖」のつくり方　恋という名のバック剤
ひと目惚れされる女になる　女のさようならば、命がけで言う
結婚の理想と現実　暮らす相手はシャツのようにには選べない
それでも私は結婚したかった　パートナーと愛する男とは一致しない
いま、こんな男が素敵

エイジレスな女になる..... 73

エイジレスな女になるために　メイク道は日々勉強、日々冒険
偉大なるメイク修業　キレイを手に入れる努力は楽しい
ユーマンがお手本　和風コスメではんなり美人
着物でベストドレッサー　着物を着るアペリティブ
夏こそ着物　着物がもたらす現象
呉服屋さんを覗く楽しみ　卒業式の袴
扇子が流行るわけ　藤娘を踊る
藤娘舞台秘話　お嬢様のお宅拝見
フォームをつくる　歌舞伎鑑賞はごほうび
夏の暑さには怪談

心の贅沢を味わう女になる……………

167

小笠原流のお正月 ひな人形の魔力

お花見指南 香道初体験記

日本旅館の贅沢な退屈 和のテーブルセッティング

外国で喜ばれるお土産 麻雀は今でもおもしろい

砂かぶりで見る大相撲 水菓子をつくる

和風ケーキは別嬪揃い 日本酒を開拓しよう

知る人ぞ知る日本酒党

買物の極意を知る女になる……………

233

南国で買うもの、こんなところに注意 ボーイフレンドへのお土産

バッグコレクター 憧れのロングヘア

骨董屋で見つけた本物 新しいクロスでディナー

自慢の洋食器に合うカトラリー 「バハラオタク」推薦のテレビ

青山までの散歩道 外国で見つけるジャパネスク

スカーフでわかるお洒落度 安くてもエッセンスになる茶道具

インパクトのある容姿 フローラ・ダニカのペインターによる作品

装幀・装画 大谷義智

強運な女になる

ひと目惚れされる女になる

運氣は貯金できるものである

強運な女と呼ばれる私であるが、不運な時だってもちろんある。現在においてもだ。不運の時、私はすぐ落ち込む。もう死んでしまいたいと思うことだつてある。

そんな時、私はどうするか。美味しいものをいっぱい食べるとか、パーツと金を使うという人もいるであろう。が、それはやめたほうがよい。美味しいものはいつときの快樂。私のようにすぐ太る體質の者は、後に体重計に乗って氣絶しそうになる。もう立ち上がれないぐらいに落ち込む。お金を使うのも考えものだ。私は自他共に認めるすごい浪費家であるが、お買い物や旅行に贅沢するのは、やっぱり心が浮き浮きしている時である。「これからビンボーになったらどうしよう。カード破産したらどうしよう」。落ち込んでいる時は、買い物も楽しくない。

そこで私は何をするか。占いに行く。占いこそは心のエステ、心の媚薬、エクスタシー

である。あなたは不運な人です、なんていう占い師はまずいであろう。あなたはともツイている、が、バイオリズムが悪い。今年の夏頃から、運気は盛り返してきますよ。と言われると、心がパァッと晴れてくるのではないか。そうなのだ、人間、不運で落ちてくばっかりのはずはない。今が一番悪い時なのだと思えると、あーら不思議、そのうちに本当によいことが起こってくる。

そして信頼できる占い師のほかに、うんと元気がよくてポジティブ思考の女友だちも用意しておくことも大切だ。心が湿った電話をしても、「何いつてんのよお」と叱り飛ばしてくれのような友だち。ただし、いつもグチってるような女に、この手の女友だちはいない。運気は貯金できるのである。だから運のいい時に、明るく力強い人間関係を結ぶ。運の悪い時は、それを使ってなぐさめてもらう。この賢さこそ、平均して運のいい人生を送るコツです。

男は運からつかわれたもの

私はどうやら強運の女と、世間から思われているらしい。

昨日、仕事仲間四人で飛行機に乗った。なんとかフェスティバルとかで皆スピードクジを渡されたのであるが、私だけが一等大当たり。

「マリンジャンボ・オルゴール」を射止めたのである。

「やっぱり林さんって、運が強いですよねえ」

「ふつうの人と違うって感じ。昔からクジなんか強かったでしょう」

そう言われてみると、確かにそういうところがあるかもしれぬ。うんと子供の頃、町内の福引きで銀色の玉を出したことがある。昔懐かしいガラガラとまわすやつだ。

「大当たりーっ、特賞が出ました」

と大騒ぎされ、七夕のような福笹と一緒にしばらく町内を練り歩いた記憶がする。懸賞

類もよく当たり、大学一年生の時には作文コンクールに入賞してパリ旅行に連れて行ってもらった。

よく運がいい、悪いなどというのは努力次第、本人の気持ちで運というものは決まる、という人がいる。つまり運というものを非常にメンタルな、錯覚に近いものにとらえている考え方だ。が、私は運というののもっと大きなもの、超常的なものだと思っている。

一つの例を挙げると、数年前直木賞の発表を待っていたときのことだ。事務所にマスコミの人達が大笑して押しかけたので、それを逃れて、近くの雀荘へいった。するとでる手がすべて役満クラスのすごい上がりとなっていくのである。それまで十年ぐらい麻雀をしていて、一度もできなかったような見事な上がり方が、五回続けて起こったのだ。これには本人が恐ろしくなってきた。

今私に何か目に見えない力が宿っているのをはっきりと感じた。それが運である。果たしてそのノミネートで私は直木賞をいただいたのであるが、当日の夜のことを編集者たちも覚えていて怖かったという。

そう、人間の知恵ではどうすることもできぬほど不思議なもの、それが運だ。しかし人間の知恵でその運をコントロールしたり、引き寄せることはできる。なぜなら、運という超常現象は強い人間に宿りやすい。明るく前向きの人といった方がいいかもしれない。そして運によってその人はますます明るく強くなるという相乗効果が生じるのである。

ひと目惚れされる女になる

その反対にいったんつまずくと運というのははがれやすくなる。かなり気まぐれな物体なのだ。私がそうであった。花の女子大生から一変して長く暗い就職浪人生活、そしてアルバイト人生へと私は突入する。この時、町内福引きから私にとりついた運は、すっかりこちらを見限ってどこかへ去っていつてしまったのだ。超ビンボウ、男の人にはもてない、どんどんデブになる、アルバイト先に嫌な女がいる、と全くついていない日々であった。運と私とは完全に別離していたのである。

しかし「運」の長所は、男の人と同じで、去っていつてもその記憶を残していつてくれるということであろう。当時私は自分に言い聞かせた。

「昔あれだけ運のいい人間といわれた私が、こんな惨めな目に遭うはずはない。今が間違っている」

この強気さが気に入ってくれたのであろう。運は徐々にこちらに顔をむけてくれた。運というのはまず、「人の出会い」という形をもつてこちらに訪れてくれることが多い。

コピーライターという仕事を教えてくれたアパートの女の子、そして恋人となる男……。運台頭期に男の影響は大きい。

「君は才能のある女だよ。僕は君のためなら何でもしてあげる」

このときこちらを褒めて、力づけてくれる男というのは、運という偉大なものからのお使いである。

.....

世の中がだれ一人として認めてくれなくても、こちらを賛えてくれる人間が一人出現する。それからすべては始まるのである。